

CONTENTES

OSAKA WEST AREA

中之島・土佐堀・北堀江 〈元治・慶応年間 の龍馬ゆかりの地〉

京阪「中之島駅」～ 地下鉄「西長堀駅」

- ①近代製紙業発祥の地「蓬莱社」跡
- ②勝海舟寓居「順正寺」跡
- ③川口運上所跡(大阪開港の地跡碑)
- ④土佐海援隊 大坂詰所「薩万」跡
- ⑤薩摩藩蔵屋敷(上屋敷)跡
- ⑥薩摩藩蔵屋敷(濱屋敷)跡
- ⑦薩摩藩蔵屋敷(中屋敷)跡
- ⑧大目橋跡
- ⑨薩摩藩蔵屋敷(下屋敷)跡
- ⑩土佐藩蔵屋敷跡
- ⑪土佐稻荷神社(山内豊數寄進の常夜燈・慶応3年11月15日建立の常夜燈)
- ⑫岩崎家舊邸跡
- ⑬司馬遼太郎住居跡

OSAKA CENTER AREA

船場・八軒家 〈文久年間 の龍馬ゆかりの地〉

地下鉄四ツ橋線「本町駅」～ 「天満橋駅」

- ①五代友厚邸跡・大久保利通宿泊の地・小松帯刀側室琴仙子(お琴)寓居跡
- ②「専稱寺」跡(勝海舟寓居・大坂海軍塾跡「勝塾」・勝、西郷吉之助会見の地)
- ③近藤長次郎妻お徳の実家「大和屋弥七」跡
- ④五代友厚像
- ⑤船宿河内屋与次兵衛跡
- ⑥五代友厚像・土居通夫像
- ⑦昭憲皇太后行啓の所
- ⑧大坂西町奉行所跡 大阪府庁跡碑
- ⑨三橋楼跡
- ⑩天満八軒家船宿京屋忠兵衛跡
- ⑪天満八軒家船宿堺屋源兵衛跡

OSAKA EAST AREA

寺町・夕陽丘 〈龍馬をめぐる人々 ゆかりの地〉

地下鉄「心齋橋駅」～「四天王寺前」

- ① 檜崎龍の武勇伝地 井池跡
- ② 伝 坂本龍馬潜伏の地 法性寺
- ③ お龍の母 檜崎貞住居跡
- ④ 八軒家船着場の遺跡 常夜燈
- ⑤ 齡延寺(土佐勤王党島村寿太郎墓・土佐藩刀工左行秀墓・安岡恒之進墓・川村貞衛道忠墓)
- ⑥ 稱念寺(伊達宗広隠居「自在庵」跡・夕陽岡阡表・清地藏・陸奥宗光及び陸奥家墓跡・薩摩藩家老小松帯刀墓跡)

OSAKA SOUTH AREA

住吉 〈龍馬脱藩前 ゆかりの地〉

南海「住吉大社駅」～ 南海「粉浜駅」

- ① 土佐藩住吉陣屋跡ゆかりの遺跡 常夜燈
- ② 住吉大社「通夜堂」
- ③ 土佐藩住吉陣屋ゆかりの地「興善寺」跡
- ④ 坂本龍馬宿泊の地「三文字屋」跡
- ⑤ 土佐藩住吉陣屋跡ゆかりの遺跡 石垣
- ⑥ 土佐藩住吉陣屋ゆかりの地 弾薬製造所跡
- ⑦ 土佐藩住吉陣屋跡

OTHER AREAS

その他の史跡

- ・ 天保山・濱崎太平次墓所跡・白峰造船所跡
- ・ 長州藩兵 62 人捕縛の地(旧淀川)・神道無念流 斎藤弥九郎寓居跡
- ・ 桂早之助、渡邊吉太郎墓所・阿部野古戦場跡・北畠顕家墓所
- ・ 境橋仇討ち場跡

OSAKA WEST AREA

中之島・土佐堀・北堀江 〈元治・慶応年間の龍馬ゆかりの地〉

〈京阪「中之島駅」～地下鉄「西長堀駅」〉

①近代製紙業発祥の地「蓬萊社」跡→②勝海舟寓居「順正寺」跡→③川口運上所跡→④土佐海援隊 大坂詰所「薩万」跡→⑤薩摩藩蔵屋敷(上屋敷)跡→⑥薩摩藩蔵屋敷(濱屋敷)跡→⑦薩摩藩蔵屋敷(中屋敷)跡→⑧大目橋跡→⑨薩摩藩蔵屋敷(下屋敷)跡→⑩土佐藩蔵屋敷跡→⑪土佐稻荷神社→⑫司馬遼太郎住居跡

① 後藤象二郎ゆかりの地 近代製紙業発祥の地「蓬萊社」跡

北区中之島 5-3-51 (大阪国際会議場)

江戸時代、ここは熊本藩(細川家)の蔵屋敷であった。明治期になり、熊本藩蔵屋敷の敷地を後藤象二郎が経営する蓬萊社が払い受け、明治8年(1875)2月にイギリス製の機械を用いて洋紙の製造を始めた。

「近代製紙業発祥の地」の碑は、リーガロイヤルホテルの西に隣接するグランキューブ大阪(大阪国際会議場)の庭内にある。



後藤象二郎



② 勝海舟寓居「順正寺」跡

福島区野田1周辺

文久2年(1862)閏8月、軍艦奉行並に就任した勝海舟は、同年12月、軍艦順動丸で大坂天保山に投錨し来坂した。その後、大坂を基盤に兵庫、泉州、紀州などを訪れ、砲台の設置場所を吟味する。

海舟日記には順正寺を寓居先にした記述が残る。『文久3年2月27日朝、上陸。安治川一丁目順正寺旅館に到る。』

また『慶応四年目録』という史料では慶応4年(1868)9月2日丸亀藩数人が順正寺に宿泊した記録がある。昭和34年(1959)に廃寺。現在の福島区野田1丁目、中央卸売市場のあたりである。



③ 五代友厚 陸奥宗光ゆかりの地 川口運上所跡

西区川口2(元大阪税関富島出張所付近)

慶応4年(1868)7月15日、この地が大坂開港の地となった。日米修好通商条約調印の際、アメリカ側は江戸と大坂の開港を求めるが幕府は拒否。慶応3年12月7日、「開港」ではなく「開市」となった。しかしその後も列強国は大坂の開港を要求。新政府の外国事務局判事として大阪在勤となった薩摩藩の五代才助(友厚)や、土佐海援隊の陸奥陽之助(宗光)の働きかけにより、この地を開港の場と決定した。



慶応4年5月1日、川口運上所(後の税関)が開設。そして、7月15日大阪港「開港」。「運上所」とは、幕末から明治にかけて、開港された港で輸出入貨物の取締りや関税の徴収を行う役所のことで、現在の税関の前身である。明治6年に「運上所」は「税関」という名に統一された。

明治5年(1872)5月28日、明治天皇は大阪巡幸の際に川口運上所で休息された。大阪税関富島出張所の敷地内に碑や案内板等があったが、閉鎖により、敷地外(安治川側)に碑が移転された。



④ 土佐海援隊 大坂詰所「薩万」跡

西区江戸堀 3-1-34 付近

■土佐海援隊について

薩摩藩の庇護のもとに発足した浪士結社「亀山社中」は、慶応 3 年(1867)4 月、土佐藩の支配のもとで「土佐海援隊」となる。

昔の怨恨を取り払い、土佐藩参政後藤象二郎と龍馬が長崎で会見。後藤より龍馬と中岡慎太郎の脱藩罪赦免を申し渡し、同時に龍馬を「土佐海援隊」、慎太郎を「土佐陸援隊」の隊長として任命する。

海援隊の隊長に任命された龍馬は、長崎の貿易商小曾根邸に本部を置く。武器・軍艦などの兵器の商取引、「閑愁録」などの出版事業など多角的な運営が進められた。給与は土佐商会(土佐藩の商務部門)長崎出張所から隊士一人に対し、月五両が支払われた。後藤象二郎の推薦で抜擢され長崎土佐商会に赴任した岩崎彌太郎は、龍馬から金の都合を依頼され、資金援助を行った。

岩崎彌太郎の日記「瓊浦日歴 其一」には、興味深い内容が記載されている。『(慶応3年4月)十九日 曇、後藤参政ニ至ル、参政曰、才谷社中合テ十六人、每人月五圓ヲ乞フ、今日大洲(藩)舟、將發帆、先ヅ金百圓ヲ才谷(龍馬)へ與ヘヨ、於是森田普三ニ命、百圓ヲ爲持遣ス處、才谷より書状ヲ以百圓ハ士官へ投ズ、我一人ノ給金ハ如何致呉候哉と尋越、右ニ付再参政ニ至る、参政曰、ソレハ過時彼自来談、事已決、不用再

投金云々、再才谷へ委細掛合致候處、又々才谷より此度登坂ハ無錢儀事ニ候へバ、是非五十圓借用申度段申来、遂決意、我ヨリ臆別として金五十圓自分持參才谷寓へ到り投與ス、此金森田へ談、公金借用ス、才谷喜悅、出酒且飲且談、大ニ當時人物條理ノ論ヲ發、日已迫黄昏辭去、到參政、再發當時條理之論、久之返寓、今日大洲船へ(土居)市太郎上乗り命ズ、浪華ニテ馬袴、越後シマ相求来候様託置』

龍馬の交渉上手な様子がうかがえる。